



公衆衛生学プログラム（博士課程前期）

田中 純子

医系科学研究科 総合健康科学専攻 公衆衛生学プログラム長
医系科学研究科 疫学・疾病制御学 教授

超高齢化・超少子化社会の進展に伴う疾病構造の変化や急速に進むグローバル化の中で、医療、保健、福祉、医療行政、臨床研究などの現場では、より専門性を深めることが求められています。

また同時に、科学技術の進歩や国際化を含めた社会経済構造の変化に伴い、重要性を増しているレギュラトリーサイエンスの概念*を理解し、効果的に実践できる者が求められています。

このような社会的・学術的要請の下、広島大学では、公衆衛生大学院の国際基準である、(1) 疫学 (Epidemiology)、(2) 生物統計学 (Biostatistics)、(3) 社会科学・行動科学 (Social and Behavioral Sciences)、(4) 保健行政・医療管理学 (Health Service Administration)、(5) 国際保健・環境保健学 (Environmental Health Sciences) の5分野の教育を体系的に行う公衆衛生学プログラム (博士課程前期) (MPHプログラム: Master's Course Program of Public Health) を設置して、リサーチマインドを持ち、科学的根拠に基づく医療 (EBM: Evidence-Based Medicine) を実践する医療従事者や政策の企画立案を担う公衆衛生行政担当者等の養成を行います。

また、このような人材育成の理念の下、外国人留学生の受入れも積極的に行い、将来、当該国において指導者となっていく人材を育成しています。

* : 科学技術の成果を人と社会に役立てることを目的に、根拠に基づいた確かな予測、評価、判断を行い、科学技術の成果を人と社会との調和の上で最も望ましい姿に調整するための科学

医学物理士プログラム（博士課程前期）



永田 靖

医系科学研究科 総合健康科学専攻 医学物理士プログラム長
医系科学研究科 放射線腫瘍学 教授

医学物理士とは、放射線を用いた医療が適切に実施されるよう、医学物理学の面で貢献する職種であり、近年の社会的な背景により、チーム医療に基づく大学院レベルでの高度な人材養成が求められています。特にがんの放射線治療の分野においては、新規の治療技術開発や臨床試験において他職種との連携により活躍できる医学物理学研究者の養成が求められています。

広島大学では高精度放射線治療である体幹部定位放射線治療や強度変調放射線治療および密封小線源治療において最先端技術開発を行っています。

このような社会的背景の下、本学では平成24年4月から大学院医歯薬保健学研究科医歯科学専攻（修士課程）に医学物理士コースを開設し、医学物理士となるために必要な教育を実施しております。また一般財団法人医学物理士認定機構が定めた教育カリキュラムガイドラインに準拠した講義基準の条件を満たすとして、中四国地区で唯一に認定医学物理教育コースとしての認定を受けています。本教育コースの修了者は医学物理士の新規認定において優遇措置を受けられます。

医学物理士プログラムでは、医学物理学分野の高度専門職業人として活躍できる人材の養成だけでなく、医学物理学の普及を担う教育者・研究者として、国内外の大学・医療機関・研究機関・民間企業との人材交流や共同研究を通じて、医学物理学分野で国際的に活躍できる人材の養成を目的としています。